



「えほんのこども」荒井良二

CONTENTS

現代の創造展
(2/12~3/6)

ブラティスラヴァ世界絵本原画展
(3/12~4/17)

プラネタリウム リニューアル
(3/26・3/27)

館長コラム

「ブラックの鳥」

滝沢 具幸

ジョルジュ・ブラックの絵にはしばしば鳥が登場する、「アトリエ」と題した油絵のシリーズや版画などには、鳥が多く描かれている。ブラックはピカソと共にキュビズムという分析的絵画表現を試みた画家であるが、晩年に描いた多くの鳥の版画作品は理屈っぽくなく、楽しげで親しみ深い。

先日、ある小学校の美術の授業を見学し、校内の鳥たちを描いた絵を見る機会があった。その学校は広い森や林が隣接しているので、子供たちは小鳥の姿を身近に目にする事ができる。水彩絵具とクレパスを使って大きな紙に描いた鳥は、一羽一羽が喜びに満ちた姿で描かれていた。鳥たちが木々の間をリズムカカルに渡る様子や、大空へとはばたきホバリングし、また反転し飛び去ってゆく形がすばらしい。子供たちは自分が鳥になったように、ためらいなく何の屈託もなく自由に描くのである。私はその絵を見ながら、ふとブラックの描いた鳥のことを思った。

ブラックはエッチングやリトグラフ、リノカットなどの版画に鳥を多く描いているが、その形や姿は子供の描いた鳥に本当によく似ている。

ブラックの鳥のほとんどは飛翔する姿で描かれているが、形はデフォルメされ、四枚、五枚の翼をもつ鳥や箱のような胴体の鳥、ジェット機のようなスタイルのものもある。その鳥たちは楽しげに大空を舞う。そして蝶のようにはばたき、花のように姿を変身し、木の

葉のように風にさざめき、雲を過ぎ月をかすめて飛ぶのである。

以前、鳥や自然の造形の神秘などについて教えていただいたあるナチュラリストの先生の著書「鳥好きが見たブラック版画-ブラックは飛ぶ鳥を見ていたか」の中で、「ブラックは鳥の動きの一瞬を捉えるカメラと違い、私たちの視覚に与えられている残像効果によって描いている。」と述べている。また「ブラックの鳥たちは一億五千万年前ジュラ紀の空に舞い上がることを夢みた始祖鳥以来、生物にとって最も困難な道を歩み続けてきた鳥たちの気高い歴史の高みをその画の内に秘めている。」と、そしてまた「ブラックの鳥たちは人間のちっぽけな頭の中で自然を無視して作り出されたような貧相な鳥たちでは決してない」・・・と。

ブラックやピカソの立体派をきっかけにして、絵画は自然描写や写実から脱却して現代絵画の「造形」という領域へと移行してゆく。

ブラックは空間を描くことを最大の関心事としていたとのことであるが、「視覚的空間はわれわれを物体から分かつ」-『ブラックの手帖』と言い、現実を知性と感性によって自己の絵画空間に定着させるということに没頭した。

ブラックは脳裏という空間に写る形や色を使って、今飛び去った鳥の残像を描いたのである。



「四手網」
高橋勝吉



「漁船Ⅱ」
高橋勝吉



「Safety net ~ 未来への架け橋 ~」
高橋勝吉



プラネタリウム映像イメージ

1

2/12^土~3/6^日

第11回現代の創造展

—飯田下伊那の作家による—

現代の創造展は、現在、地域で制作している美術家や地域出身で制作をおこなっている作家が、飯田下伊那地区で未発表の近作や新作を発表する展覧会です。作家たちにより現代の創造展実行委員会が組織され、委員会が出品者を選定して出品を委嘱しています。分野は、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書からなり、様々な表現の作品が会場を彩ります。平成13年の第1回展開催以来、今年で第11回展を迎えます。

現代の創造展では、第6回展から学芸員企画という特集展示をおこなっています。これは分野の範疇に入りにくかったり、少数の作品では表現しきれなかったりする美術作品について、出品者と学芸員が協力し展示をおこなうというものです。

第11回展の学芸員企画は、絵画作家、高橋勝吉さんの作品を展示をいたします。高橋さんは、長野県の旧丸子町の生まれで、現在は飯田市に在住です。水彩連盟展に出品し、平成16年には奨励賞を受賞、準会員となっています。また、近年はモダンアート展で俊英作家として選ばれ、現在、同会の会友です。

諏訪湖の四ッ手網を主体モチーフにしなが、構図やマチエールを追求した作品は、平面表現の様々な可能性を見せてくれます。



「ぼくがうまれた音」智内 兄助

2

3/12^土~4/17^日

ブラティスラヴァ世界絵本原画展

—世界の絵本がやってきた—

ブラティスラヴァ世界絵本原画展(略称BIB)は、スロヴァキア共和国の首都・ブラティスラヴァでおこなわれる世界最大規模の絵本原画展として知られています。

1967年、当時のチェコスロヴァキアで第1回展が開催されて以来、2年ごと開かれており、2009年秋に22回目を迎えました。世界各国から国内選考を経て出品された原画が一堂に展示されていますが、絵本としてすでに出版されていることが参加条件となるため、ベテラン作家たちによる個性の競演を楽しむ機会といえるでしょう。

本展では、BIB2009年展のグランプリをはじめとする各国の受賞作品と日本人作家による出品作品を中心に展覧いたします。さらに、同展に出品された世界各国の絵本も併せて展示いたします。是非この機会に絵本の豊かな世界をお楽しみください。

また、特別展示として、スロヴァキア共和国の隣国・チェコ共和国の家庭用操り人形を紹介いたします。チェコの人形劇はNHK『人形劇三国志』を手がけた川本喜八郎をはじめ日本の人形作家にも多大な影響を与えています。本展は日本においてチェコの家家庭用操り人形を体系的に紹介する初めての展示となります。



「ぶきょうな父さん」マルチナ・マトロヴィチョヴァー



「マルティネクの劇場」
フルジム人形美術館蔵

今回の展覧会では、飯田市美術博物館と飯田市川本喜八郎人形美術館が会場となります。また、飯田市立中央図書館でも絵本に関する企画が計画されています。講演会やワークショップも盛りだくさん。絵本と人形の夢あふれる世界をお楽しみください。

- 会期中のイベント -----
- ▶ 絵本作家あべ弘士さんによる講演会
3月12日(土)午前10時 飯田市立中央図書館
 - ▶ 絵本作家あべ弘士さんによるワークショップ
3月12日(土)午後2時 飯田市美術博物館
 - ▶ イジー・トゥルンカアニメ上映会
3月16日(水)~18日(金)午後7時 飯田市川本喜八郎人形美術館
 - ▶ 人形劇研究家加藤暁子さんによる講演会
3月19日(土)午後2時 飯田市川本喜八郎人形美術館
 - ▶ 人形劇研究家加藤暁子さんによるワークショップ
3月20日(日)午前9時30分 りんご庁舎
 - ▶ 絵本作家智内兄助さんによる講演会
4月2日(土)午後2時 飯田市美術博物館
 - ▶ 糸繰り人形デモンストレーション
4月10日(日)午前11時・午後2時 飯田市川本喜八郎人形美術館
 - ▶ 絵本よみきかせ会
3月13日(日)・3月27日(日)・4月3日(日)・4月17日(日)
午前11時・午後2時 飯田市美術博物館



カシュパーレック

アレシュに似た町の男

「アレシュ人形」ミコラーシュ・アレシュ
フルジム人形美術館蔵

3

3/26^土・3/27^日

プラネタリウム リニューアル

—地域の“たから”をドームに映す—

開館以来22年、美博の顔のひとつとして親しまれてきたプラネタリウムをデジタル式の新投影機にリニューアルします。新しい投影機は魚眼レンズを使用したコンパクトなスタイル。従来のプラネタリウムのような中央に立ち上がった形ではないため、視界をさえぎられることなく全天の星空を楽しめます。またコンピュータで描いた動画や実写映像を投影することが可能となり、番組の表現も格段に広がります。今までは、子ども向けの番組を主に楽しんでいただきましたが、これからは大人の方にも満足していただけるような科学番組もラインナップに加わります。

新しいプラネタリウムでは天文・科学番組とともに、伊那谷の自然と文化に関する全天周映像を上映します。ドーム全体360°に広がる臨場感に富んだ映像を生かして、地域の観光スポット、郷土の自然・歴史・民俗などを紹介する番組を天文番組とセットにして上映します。現在、和歌山大学と共同し、霜月祭、御池山隕石クレーター、しらびそ高原の秋、遠山郷の野鳥、遠山郷の蝶の5つの番組を制作しています。

3月28日にいよいよ新しい投影機でのプログラムが始まります。これに先立つ3月26・27日の2日間、リニューアル記念行事では新しいプラネタリウムを無料で体験していただけます。



「まいごの幼子」タシエス